

各都道府県代表理事 各位

全国高等学校長協会家庭部会
公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
理事長 木次 慎一
(公印省略)
進路調査研究委員会委員長 造作 聡美

大学、短期大学、専門学校の入学者選抜等に関する要請訪問について（依頼）

時下、ますます御清祥のことと存じます。また、日頃より、当部会並びに振興会の諸事業に御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当部会では、従前より大学、短期大学、専門学校における入学者選抜の改善等について、本部役員を中心に関係団体に要請を行ってまいりました。平成30年度からは、これまでの進路要請の取組に加え、組織的・継続的に、全国的な要請活動に取り組むことといたしました。

国の入学者選抜改革の下、各大学等においては、入学者選抜の見直しが引き続き進められております。各都道府県におきましては、下記により都道府県代表理事等を中心にご対応くださいますようお願いいたします。

なお、本部におきましても、去る10月3日に関係団体に要請訪問を行いました。

記

1 訪問の趣旨

- (1) 「家庭に関する学科で学ぶ生徒の進学機会の拡大等についての要望書」に基づく要請
- (2) 「家庭に関する学科で学ぶ生徒の入学者選抜等に関する大学・短大への進路要請訪問報告書」の内容に関する情報収集
- (3) 関係専門学校への4家第65号「家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等に係る要望及び調査について（依頼）」（別紙【調査用紙】を含む）の依頼（郵送等も可）

2 訪問の対象

貴都道府県内の大学、短期大学、専門学校（家庭科の学習に関連した科を有する学校）。

※過去に訪問している大学等も含む。

3 要請訪問結果の報告方法及び報告期限

- (1) 報告方法
（別紙）「進路要請訪問報告書」のデータを下記アドレス宛にメールに添付して提出する。
- (2) 報告期限
要請訪問ののち1ヶ月以内を目途とし、最終期限を令和5年1月13日（金）とする。

4 その他

- (1) 訪問の際は、参考資料として「今 高等学校家庭科教育は」と「技術検定しおり」をご持参ください。DM便で送付しますので、送付先と期限、部数をメールでお知らせください。
- (2) 代表理事を中心に都道府県単位で組織的に実施することが望ましいが、家庭に関する学科設置校が単独で実施した場合においても、報告書を提出してください。
- (3) 実施できなかった場合は、上記報告期限までにその旨を報告ください。
- (4) 提出された報告書の内容は、2月の理事会及び次年度の総会で報告します。

5 添付データ

- (1) 「要望書」及び「（別紙）要請訪問報告書」
- (2) 関係専門学校長宛て文書（4家第65号）及び別紙【調査用紙】
- (3) 令和4年度進路要請訪問記録
- (4) 令和3年度 都道府県代表理事等による「進路要請訪問の結果」及び専門学校対象「調査結果」

<問い合わせ先>
全国高等学校長協会家庭部会
事務局長 加藤 路子
電話 03-3261-0617
FAX 03-3288-1670
E-mail:all-kocho@katei-ed.or.jp

令和四年十月吉日

家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等についての要望書

全国高等学校長協会家庭部会
理事長 木次 慎一
同 進路調査研究委員会
委員長 造作 聡美

家庭に関する学科等においては、将来の生活産業を担うスペシャリストの育成を目指し、知識・技術の習得はもとより、学習の定着をより確実にするため、公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会主催、文部科学省後援による家庭科技術検定（被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定）などにも取り組んでおります。このような中、家庭に関する学科で身につけた知識・技術をさらに高めるため、また、より高度な資格を取得するため、大学・短大への進学を希望する生徒が約三割おります。

そこで、各大学等の入学者選抜において、家庭に関する学科等で学んだ生徒の取組の成果に対する評価を十分に行ってくださいますよう、強く要望するものであります。また、経済的な理由で、進学を断念したり、入学後の学業に専念できない生徒も少なからずいたりすることなどから、その環境改善を切に願うものであります。

つきましては、進学機会の拡大に向け、入学者選抜の改善や環境整備など、左記の事項について特段のご高配を賜りますよう、全国高等学校長協会家庭部会の総意によってお願い申し上げます。

記

- 一 「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」における家庭に関する学科等で学ぶ生徒を対象とした枠の設置及び拡大、並びに「専門学科・総合学科卒業生選抜」の積極的な導入。
- 二 家政関係の学部・学科（教育を含む）における入学者選抜において、出願資格・条件のひとつに、家庭科技術検定を明記するとともに、その成果や課題研究・学校家庭クラブ活動等の実績の適切な評価。
- 三 家庭科技術検定などの家庭に関する学科等で学んだ学習成果に応じて、入学金・授業料等の減免や奨学金制度の充実等、経済的優遇措置の一層の拡充。

以上の三項目につきまして、重点事項として要望いたします。

特に、今後の入学者選抜の実施にあたっては、一及び二について、特段の配慮を重ねてお願いいたします。

令和四年十月吉日

家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等についての要望書

全国高等学校長協会家庭部会

理事長 木次 慎一

同 進路調査研究委員会

委員長 造作 聡美

家庭に関する学科等においては、将来の生活産業を担うスペシャリストの育成を目指し、知識・技術の習得はもとより、学習の定着をより確実にするため、公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会主催、文部科学省後援による家庭科技術検定(被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定)などにも取り組んでおります。このような中、高等学校で身につけた知識・技術をさらに高めるため、また、より高度な資格を取得するため、専修学校への進学を希望する生徒が多数おります。

しかしながら、経済的な理由で、進学を断念したり、入学後の学業に専念できない生徒も少なからずいたりすることなどから、その環境改善を切に願うものであります。

つきましては、進学機会の拡大等に向けた環境整備など、左記の事項について特段のご高配を賜りますよう、全国高等学校長協会家庭部会の総意によってお願い申し上げます。

記

- 一 家庭科技術検定などの家庭に関する学科等で学んだ学習成果に応じて、入学金・授業料等の減免や奨学金制度の充実等、経済的優遇措置の一層の拡充。
- 二 入学者選抜において、出願資格・条件のひとつに、家庭科技術検定を明記するとともに、その成果や課題研究・学校家庭クラブ活動等の実績を尊重・重視した評価の導入並びに一層の推進。

以上の二項目につきまして重点事項として要望いたします。

令和四年十月吉日

家庭に関する学科等で学ぶ生徒の採用に関する要望書

全国高等学校長協会家庭部会

理事長 木次 慎一

同 進路調査研究委員会

委員長 造作 聡美

家庭に関する学科等においては、将来の生活産業を担うスペシャリストの育成を目指し、知識・技術の習得はもとより、学習の定着をより確実にするため、公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会主催、文部科学省後援による家庭科技術検定(被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定)などにも取り組んでおります。さらに、課題研究やインターシップなどの体験的な学習を重視して、実践力やコミュニケーション力、豊かな人間性を育んでおります。就職を希望する生徒は、衣食住・保育や福祉といった人々の生活に密接に関係した学びから得た専門性を活用して、生活の質を向上させるものづくりやヒューマンサービスを通して社会に貢献したいという熱意にあふれております。このような人間生活の基本を真摯に学ぶ若者に対して就業の機会を確保することは、私たちの切実な願いであります。

貴団体におかれましては、就職希望者が自らの進路実現を図ることができるよう、各都道府県下の企業との連携により、求人や採用に際して、左記の事項に特段のご高配を賜りますよう、全国高等学校長協会家庭部会の総意によってお願い申し上げます。

記

一 家庭に関する学科等で学ぶ生徒が希望を持って社会に踏み出せるよう、新型コロナウイルス禍においても生活産業に関わる企業等における採用枠の安定的な確保。

二 採用選考において、家庭科技術検定、課題研究や学校家庭クラブ活動などの成果を尊重・重視した評価の導入並びに推進。

4 家 第 6 5 号
令和4年10月6日

関係専門学校長 各位

全国高等学校長協会家庭部会
公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会
理事長 木次 慎一
(公印省略)

家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等に係る要望及び調査について (依頼)

時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、当部会並びに振興会の諸事業に御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当部会は、高等学校の家庭科教育振興を図ることを目的とした約1,900名の高等学校の校長を会員とする教育団体であり、当振興会では、文部科学省後援の全国高等学校家庭科技術検定を主な事業として実施しています。

毎年、家庭に関する学科等^(※)卒業者の進路状況調査を実施しており、その結果から、3割強の卒業生が専門学校に進学し、その中の約6割が家庭科で学んだ分野に進んでいます。また、家庭に関する学科等の多くは、学科での学びの定着を図るため、全国高等学校家庭科技術検定を取り入れています。

そこで、全国高等学校家庭科技術検定取得者に対する入学者選抜や経済的な優遇措置を要望するとともに、その実態を把握したく、下記のとおり調査を実施いたします。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

(※) 農業に関する学科のうち生活科や、総合学科の家庭系列を含む

記

1 調査の目的

家庭に関する学科等で学ぶ生徒の学習成果に対する評価や経済的優遇措置の実態を調査し、その結果を全国の会員高等学校等に提供することにより、進路指導・キャリア教育の充実に資するため。

2 調査を対象とする科等

貴校のうち次の分野の学科

- 衛生分野 (調理、栄養、製菓、製パン等)
- 教育・社会福祉分野 (保育、幼児教育、介護福祉、社会福祉等)
- 服飾・家政分野 (服飾、和裁、ファッションデザイン、アパレル等)

3 回答方法等

【調査用紙】に記入のうえ、FAX送付先に送付。(鑑不要) 回答期限: 令和4年12月23日(金)

※該当する複数の学科を設置する専門学校で、学科により全国高等学校家庭科技術検定取得に対する評価や経済的優遇措置条件が異なる場合は、調査用紙をコピーして、学科ごとにご回答ください。

4 その他

回答いただきました内容は、全国の会員高等学校等に提供させていただきます。

また、調査結果の概要は、集計後に、全国専修学校各種学校総連合会を通じてお知らせする予定です。

5 添付書類

- ・家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等についての要望書
- ・【調査用紙】 家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等に係る調査

<問い合わせ先>
全国高等学校長協会家庭部会
事務局長 加藤 路子
電話 03-3261-0617
FAX 03-3288-1670
E-mail: all-kocho@katei-ed.or.jp

【調査用紙】

送付先 : 全国高等学校長協会家庭部会事務局 宛
 FAX 03-3288-1670 締切: 令和4年12月23日(金)

ア専門

学校名	学科名	電話番号
住所 〒 都道府県	記載者 職・氏名	

家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等に係る調査

1 次の①～③の全国高等学校家庭科技術検定（以下、家庭科技術検定という）について、知っていますか。知っている場合は○を、知らない場合は×を記入してください。

①被服製作技術検定	②食物調理技術検定	③保育技術検定
-----------	-----------	---------

2 【令和5年度入学生対象】家庭科技術検定取得者に対する貴校の入学者選抜及び経済的優遇措置について、下の(1)(2)に教えてください。表中の記号A～D及び四冠王、三冠王については以下の()に示します。

〔 A 被服製作技術検定(和服) B 被服製作技術検定(洋服) C 食物調理技術検定 D 保育技術検定
 ・四冠王…A～Dのすべての検定の1級合格者 ・三冠王…A～Cの検定の1級合格者 〕

(1) AO入試や推薦入試等の出願資格や選抜における加点等、入学者選抜における家庭科技術検定取得者への配慮がありますか。下表のア～エで該当する記号に○を付けてください。イ・ウに○を付けた場合は、A～Dの記号に○を付け、[]に級の数字(例:1級は1)を記入してください。また、四冠王や三冠王についても該当する場合は、○を付けてください。エに○をつけた場合は、具体的に記入してください。

記号に○	対象となる検定の種類及び該当する級 (記号に○、[]に級の数字)	四冠王	三冠王
ア 出願資格や選抜における加点等はない。			
イ AO入試や推薦入試等の出願資格のひとつに定めている。	A [] B [] C [] D []		
ウ 入学者選抜において加点項目のひとつに定めている。	A [] B [] C [] D []		
エ その他			

(2) 家庭科技術検定取得者に対する経済的優遇措置がありますか。下表のア～カで該当する記号に○を付けてください。イ～オに○を付けた場合は、A～Dの記号に○を付け、[]に級の数字(例:1級は1)を記入してください。また、四冠王や三冠王についても該当する場合は、○を付けてください。備考欄には、減免や奨学金の具体的内容を記入してください。カに○をつけた場合は、具体的に記入してください。

記号に○	対象となる検定の種類及び該当する級	四冠王	三冠王	備考(減免等の内容)
ア 経済的優遇措置は特がない。				
イ 受験料の減免がある。	A [] B [] C [] D []			
ウ 入学金の減免がある。	A [] B [] C [] D []			
エ 授業料の減免がある。	A [] B [] C [] D []			
オ 奨学金がある。	A [] B [] C [] D []			
カ その他				
(例) ① 受験料の減免がある。	A [] B [1,2] C [1,2] D [1,2]	○	○	左記の一つでも該当すれば全額免除

◆ご協力、ありがとうございました。

令和4年度進路要請訪問（家庭学科卒業者の入学者選抜及び就職に係る要望書提出）記録

10月3日(月) ■訪問者:理事長、進路委員長、事務局(加藤)

※国立大学協会は文書のみ送付し、後日、日本教育大学全国家庭科部門（R4運営委員長は北海道教育大学教授で、9地区会が置かれる）に働きかける。

	訪問機関	住所	会長名	事務局長	対応者	面談概要
1	全国専修学校 各種学校総連合会	〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 1 1 階	福田 益和	菅野 国弘	参与 菊田 薫 総務課課長 原田大五郎	<ul style="list-style-type: none"> 専修学校の質の保証・向上に関する調査研究協力者会議 会議録等：文科省 Web サイトに掲載（直近 9 月 29 日） 就学支援制度の見直しが進められている。 専修学校の約 2 割が対象外。 申請要件に経営状況が含まれ、特に地方や被服系で申請できない。 高校は個別に地元の専修学校との連携を進めて欲しい。
2	日本私立大学協会	〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 9 階	小原 芳明	小出 秀文	事務局長 小出 秀文 事務局次長 吉村 猛	<ul style="list-style-type: none"> 協会には 410 大学加盟（2021 年 4 月現在） 入学者選抜は各大学で進めている。 大学は伸びしろのある生徒を求めている。 情報提供があれば「教育学術新聞」（月 1 回発行）に掲載。 要請訪問については、春・秋の総会で報告。 （依頼により訪問時の資料 100 部送付）
3	日本私立大学連盟	〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 7 階	田中 愛治	坂下 嬢子	事務局長 坂下 嬢子	<ul style="list-style-type: none"> 進学・就職して社会でリーダーになる姿を広く見せていく必要がある。 進学は専門学科で学んだことを生かして進学すればよいのではないか。 優秀な学生は欲しい。 就学支援制度は経済的中間層への支援が必要。
4	日本私立短期大学協会	〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 6 階	関口 修	小松 茂喜	事務局長 小松 茂喜	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、5 校くらい減少。 短大の教授達が検定等を知らない。 各校と地元短大の連携を進め、教授レベルにアピールをして欲しい。 10/19 の総会で周知 就学支援制度の文科省検討会では、経済的中間層や理工系への見直しが進められている。
5	全国公立短期大学協会	〒101-0047 千代田区内神田 3-5-5 大同ビル 3 階	柳沢 幸治	塚越 義行	事務局長 塚越 義行 事務局員 中村 康子	<ul style="list-style-type: none"> 全国に 13 校。 就職希望者はほぼ 100%就職内定。 約 3 割が四年制大学に編入。 家政系・保育系の学部もある。 県外からの入学者も少なくない。 要望書については電子メールで加盟校に周知。
6	公立大学協会	〒100-0013 千代田区霞が関 3-8-1 虎の門三井ビル B106	松尾太加志	中田 晃	事務局長 中田 晃 主幹 川島 香織 主任 岡崎 篤	<ul style="list-style-type: none"> 時代の流れに即応した人材育成が求められ、特に、栄養、看護、医療系が多い。 大学での様々な学びが地域貢献につながることを求められる。 各校と大学との連携、接続教育が必要。
	全国中小企業団体中央会	〒104-0033 中央区新川 1-26-19 全中・全味ビル	森 洋	及川 勝		後日、文書のみ郵送。
	国立大学協会	〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 4 階	永田 恭介	戸渡 速志		

令和3年度 都道府県代表理事等による地元大学・短期大学への進路要請訪問の結果

「家庭に関する学科で学ぶ生徒の入学者選抜等に関する配慮等について」

I 訪問概要 (2府19県 47大学等、書面での回答含む) R3.10.1~R4.1.14

通 No.	府県 名	国 公 私	学校名	学部・学科名	面会者役職	訪問期 日
1	青森	国	弘前大学		弘前大学高大連携推進担当者 (人文社会学部所属)	12月
2	岩手	公	岩手県立大学盛岡短期大学部		短期大学部長・入試グループ主幹、生活 科学科学科長・教授	12月
3		私	盛岡大学		入試・広報センター所長、入試センター 副所長・課長	12月
4		国	岩手大学		教育学部特命准教授	12月
5	宮城	私	尚綱学院大学		入試広報課進学専門監	1月
6		私	仙台大学	体育学部健康福祉学科	教授	1月
7	秋田	私	秋田看護福祉大学		看護福祉学部長・教務課総括アソシエ イトマネージャー	1月
8	茨城	国	茨城大学	教育学部	教授	12月
9		私	常磐大学・短期大学		アドミッションセンター長(副学長)、ア ドミッションセンター統括	12月
10		私	茨城キリスト教大学	生活科学部(食物健康科学科、心理福祉学科) 文学部(児童教育学科)	入試広報部長	12月
11	栃木	私	作新学院大学 作新学院女子短期大学部	経営学部、人間文化学部、短期大学部	学長、学長特別補佐・女子短期大学部教 授、入試部長・経営学部教授、事務局次長	12月
12		私	桐生大学 桐生短期大学	(大)医療保健学部(看護医療学科、栄養学科) 別科助産専攻	入試広報課主任	12月
13	千葉	私	昭和学院短期大学		学長、入試広報センター長・教授	12月
14		私	開智国際大学		学長、アドミッションセンター長	12月
15	東京	私	女子栄養大学	栄養学部	入試広報課	12月
16		私	星美学園短期大学		幼児保育学科准教授・入試広報委員長	11月
17	新潟	国	新潟大学	農学部	学務係長	12月
18		公	新潟県立大学	人間生活学部(こども学科、健康栄養学科)	入試広報課長	12月
19	富山	私	富山短期大学	幼児教育学科、食物栄養学科、健康福祉学科、経営 情報学科	学長、教務部長・幼児教育学科 教授、教務 部・入試、広報センター入試広報課課長	10月
20		私	富山福祉短期大学	幼児教育学科、社会福祉学科、看護学科	学長、企画推進部、常務理事・学園本部部長	10月
21	長野	国	信州大学	教育学部学術研究院教育学系	家庭科教育グループ主任・教授、入試部 会部会長	11月
22		公	長野県立大学	健康発達学部食健康学科	学部長・教授、事務局・学務課長	11月
23		私	松本大学	人間健康学部健康栄養学科	健康栄養学科長・教授	11月
24		私	長野女子短期大学	生活科学科 食物栄養専攻	入試企画課長	11月
25		私	松本短期大学	幼児保育学科	学長・教授、介護福祉学科専攻科 教授	12月
26		私	上田女子短期大学	幼児教育学科	幼児教育学科 講師、入試広報課	12月
27		私	信州豊南短期大学	幼児教育学科	学長・理学博士	12月
28		私	飯田女子短期大学	幼児保育学科	家政学科・家政専攻主任 教授、学務部・ 教務課長	12月
29		国	岐阜大学	教育学部家政教育学科	副学長 教育学部教授	12月
30	滋賀	私	滋賀短期大学	生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニ ケーション学科、	入試広報センター 室長	12月
31	京都	私	京都光華女子大学		入学広報センター	12月
32		私	京都華頂大学		教育学部 入試広報室	12月
33		私	同志社女子大学		広報部広報室入学課 課長	12月
34	大阪	私	高野山大学		学長	10月
35		私	大阪青山大学		入試部長	10月
36	岡山	私	美作大学・美作大学短期大学部	(大)生活科学部(食物学科、児童学科、社会福祉学科) (短) 栄養学科、幼児教育学科	学長、大学事務局長、学科教授、学生募 集広報室長	11月
37		私	中国学園大学・中国短期大学	(大)現代生活学部人間栄養学科、子ども学部子ども 学科、国際教養学部国際教養学科	入試広報部長、入試広報部次長	11月
38		私	ノートルダム清心女子大学	文学部(英語英文学科、日本語日本史学科、現代社会学科) 人間生活学部(人間生活学科、児童学科、食品栄養学科)	入試広報部 部長	12月
39	徳島	私	四国大学・短期大学		入試広報部長	11月
40	福岡	私	九州大学・短期大学		学長、教務部副部長 入試広報課課長	7月
41		私	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学		代理理事・学長	11月
42		私	西南学院大学・短期大学		学長・常任理事	11月
43		国	福岡教育大学		学長、入試課長	11月
44		私	福岡女子大学		学長、副学長	12月
45	熊本	私	尚綱大学・短期大学		学長、食物栄養学科長	12月
46	宮崎	私	宮崎学園短期大学		学長、保育科長 教授	11月
47		私	宮崎学園大学		学長、保育科長 教授	11月

専門学校に対する家庭に関する学科等で学ぶ生徒の進学機会の拡大等に係る調査

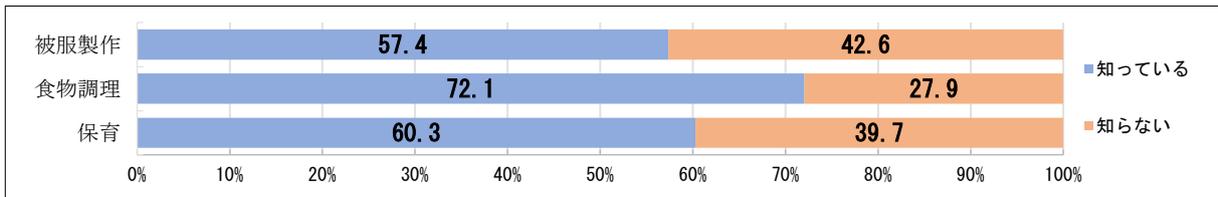
R3.10.1 ~ R3.12.24 回答専門学校 68校 (1府12県)

◆家庭科技術検定（被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定）を知っているか、否か

	知っている		知らない	
	校数	%	校数	%
被服製作技術検	39	57.4	29	42.6
食物調理技術検	49	72.1	19	27.9
保育技術検定	41	60.3	27	39.7

【参考】R2年度 回答専門学校 77校 (1都14県)

	知っている		知らない	
	校数	%	校数	%
被服製作技術検定	41	53.2	36	46.8
食物調理技術検定	55	71.4	22	28.6
保育技術検定	34	44.2	43	55.8

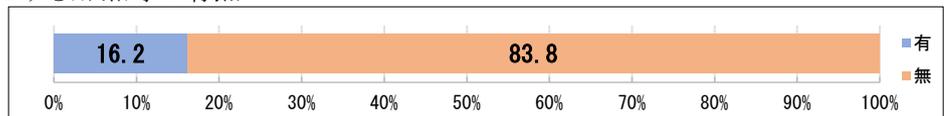


◆家庭科技術検定取得者に対する入学選抜及び経済的優遇措置

1 A0入試や推薦入試等の出願資格や選抜における加点等の配慮について

(1) 出願資格や選抜における加点等の有無

	校数	%
有	11	16.2
無	57	83.8



(2) (1)で「有」と回答のあった学校での配慮事項（複数回答）

配慮事項	校数
イ A0入試や推薦入試時の出願資格のひとつに定めている	2
ウ 入学者選抜において加点項目のひとつに定めている	5
エ その他	7

- ・定員に達しない場合成績3以上を採用。定員後の場合被服製作(和)1級、被服製作(洋)1、2級の方を考慮
- ・出願書類への記載及び申告等があれば加味
- ・面接時における目的意識の確認の材料として
- ・書類面接において考慮する場合もある
- ・食物調理：選抜の際考慮
- ・奨学生試験の加点がある：被服製作(和・洋)1、2級、四冠・三冠

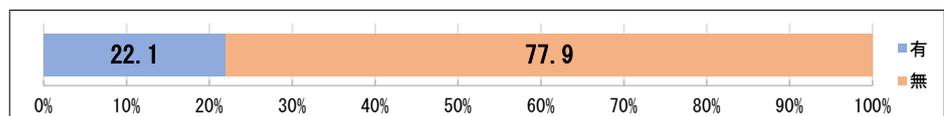
(3) (1)で「有」と回答のあった学校での対象分野（A～D）及び四冠王、三冠王

	A被服製作(和)	B被服製作(洋)	C食物調理	D保育	四冠王	三冠王
イ A0入試や推薦入試時の出願資格のひとつに定めている	2	2			1	1
ウ 入学者選抜において加点項目のひとつに定めている	5	5	2	1	1	1

2 家庭技術検定取得者に対する経済的措置について

(1) 経済的な優遇措置の有無

	校数	%
有	15	22.1
無	53	77.9



(2) (1)「有」と回答のあった学校での内容及び対象分野

配慮事項	A被服製作(和)	B被服製作(洋)	C食物調理	D保育	四冠王	三冠王
イ 受験料の減免がある	1	1	2	1	1	1
ウ 入学金の減免がある	3	3	4	3	1	1
エ 授業料の減免がある	5	5	4	5	1	1
オ 奨学金がある	1	1	3	1	3	3
カ その他						

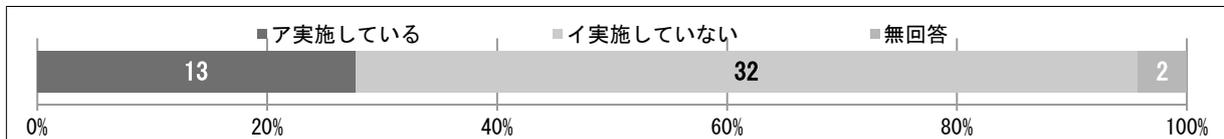
II 令和3年度 都道府県代表理事等による地元大学・短期大学への進路要請訪問の面談結果

※グラフ中の数字は校数とする

(1) 家庭に関する学科で学ぶ生徒を対象とした「学校推薦型選抜」のの実施について

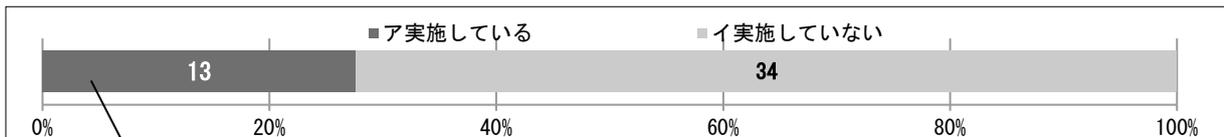
①指定校推薦

回答数：47



②公募制推薦

回答数：47



盛岡大学、作新学院大学・同女子短期大学部、女子栄養大学、星美学園短期大学、新潟大学、新潟県立大学
富山福祉短期大学、岐阜大学、滋賀短期大学、高野山大学、ノートルダム清心女子大学、宮崎学園短期大学
宮崎学園大学、(13校)

(2) 家庭に関する学科で学ぶ生徒を対象とした特別な選抜実施について

回答数：47

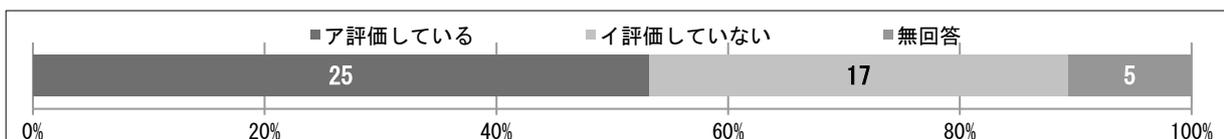


岩手県立大学盛岡短期大学部、盛岡大学、作新学院大学・同女子短期大学部、新潟大学、新潟県立大学、高野山大学 (6校)

(3) 入学者選抜における家庭に関する学科での学習成果の評価について

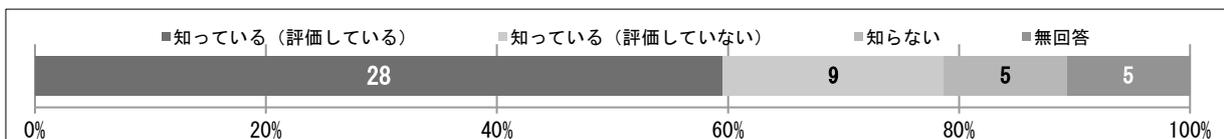
・課題研究

回答数：47



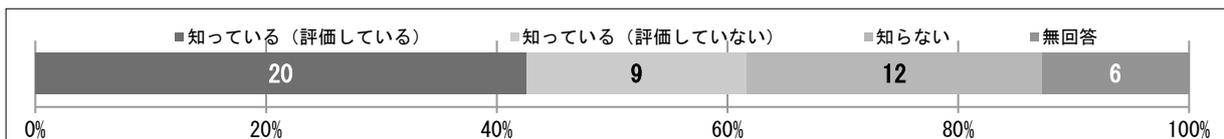
・家庭科技術検定

回答数：47



・学校家庭クラブ

回答数：47



(4) 家庭に関する学科での学習成果に応じた入学金・授業料などの減免について

回答数：47



高野山大学、宮崎学園短期大学、宮崎学園大学 (3校)